



## 靴職人が仕立てた 自分にフィットする起業のかたち



### ふくやま なおき

山口県周南市(旧・徳山市)出身。九州産業大学を中退後、複数の写真館に勤める。その後、東京のエスペランサ靴学院で靴づくりを学び、義肢装具会社で働く。39歳のときに周南市にUターンしてbespoke shoes N.Fukuyamaを開業。

#### 〈企業概要〉

- ▶ 創業  
2016年
- ▶ 従業者数  
2人
- ▶ 事業内容  
オーダーメイドシューズの製造・販売
- ▶ 所在地  
山口県周南市鹿野上2865-3
- ▶ 電話番号  
0834(68)2272
- ▶ URL  
<http://n-fukuyama.com>

### bespoke shoes N.Fukuyama 福山 直樹

山口県周南市の鹿野上にある bespoke shoes N.Fukuyama は、福山直樹さんが39歳のときに開いたオーダーメイドシューズの工房だ。福山さんは、カメラマンから靴職人に転身した異色の経歴の持ち主である。店を構えたのは、徳山駅からバスで1時間半以上かかる高齢化が進む町。福山さんは、どんなことを考えて起業の道を選んだのだろうか。

### 34歳で見つけた靴づくりの道

——店名のbespokeはどういう意味ですか。

オーダーメイドを意味します。示す、話すという意味のbespeakから派生した言葉で、洋服などの仕立職人が顧客と対話をしながら注文を受けていくことから、そういわれるようになったそうです。お客さまとじっくり話しながら、その人が思い描く一足を共に形にしたいという気持ちを込めて、bespoke shoes N.Fukuyamaという店名にしました。時々手伝ってくれる妻と二人で営ん

でいます。

足型の製作から仕立てまで行うフルオーダーでは、足の採寸に3D計測器を使っています。数値から図面を起こしてプラスチック成形を外注することで、その人だけの足型をつくることができます。

通常は、既存のベース型を使って足型をつくります。長さや幅、甲の高さを組み合わせた幅広いラインアップがあるので、それを削ったりパテを盛ったりして調整すれば足りるからです。しかし、足の骨が大きく曲がっているなど、既製品では形を合わせられないケースもあります。足型を一からつくる方法であれば、そ

うした場合にも対応できます。

値段は、高いものでは20万円以上です。足型をつくらないセミオーダーと合わせて、年に40足ほど手がけています。

——昔から革靴には凝っていたのでしょね。

そうでもなく、今でもサンダルやスニーカーばかり履いています。実は、わたしが好きなのは、靴づくりに限らずデザインやものづくりそのものです。大学時代は山口県の実家を離れ、福岡県で空間デザインを学んでいました。当時から創作活動を仕事にしたいと考えていましたが、道を見つけれずにいました。

ある日、「プロのいる写真館」と書かれたポスターを見かけました。写真も表現の手段です。プロのカメラマンになれば創作の世界で働ける。そう考えて、福岡市内の写真館に就職しました。基礎から技術を学び、社内のコンテストで賞を取るまでになりました。自信もつき、独立しようと約5年勤めた写真館を辞め、実家に帰りました。

すぐに東京に出るつもりだったのですが、地元、周南市内の写真館で働くことになり、5年ほどとどまりました。それでも、休日に作品を撮りためては、年に数回、共同で個展を開いていました。写真や絵画、木工な

ど幅広いジャンルの作家が集まって、自分の作品を展示するものです。ところが、撮れば撮るほど、自分の腕に限界を感じるようになりました。

進むべき道がわからなくなり、もやもやとした気持ちを抱えながら過ごしていました。ある日、個展に友人が出品した革細工の小物が目に留まります。写真と違って立体で表現できることに惹かれて体験したところ、加工の面白さにすっかりはまってしまいました。

——そこから革靴に行きついたわけですね。革製品のなかでも靴を選んだのはなぜですか。

人とかかわりながらものづくりをしたかったからです。写真でも、わたしの被写体は主に人物です。レンズを通して感じる相手の人となりや感情を、写真に表してきました。オーダーメイドシューズなら、履く人との対話を繰り返しながら、ほかになんかものを一からつくり上げることができます。まさにbespokeですよ。

34歳のとき、地元の写真館を辞めて、東京にあるエスペランサ靴学院という専門学校に入学しました。同級生は一回りも年下です。皆、もともと革靴が好きで専門用語にも慣れていました。何も知らなかったわたしは、基礎学科では落ちこぼれました。しかし、実技は得意分野です。卒業

制作ではわたしが優勝し、最後に挽回できました。卒業後は、義肢装具の製作会社に就職しました。

## 夢を叶えるための起業

——すぐには起業しなかったのですね。

はい。ただ、地元で起業することは、専門学校にいるときから決めていました。どこかの工房に就職する道もありましたが、それでは分業制になったり、会社の方針に縛られたりして、好きなように靴をつくれなと思ったのです。

地元を起業場所を選んだのは、高齢の両親の近くにいたかったからです。遠く離れた場所で働いては、元気なうちにはもう数回しか会えないかもしれません。それと、もう一つ理由があります。

——それは何ですか。

静かな場所で、お客さまとの対話や靴づくりに集中したかったからです。一人ひとりと時間をかけて話をして、その人だけの一足を丁寧につくる。そのためには、大都会よりも、人の往来が少ない場所が向いています。

一方で、高齢化の進む地元では、客層もお年寄りが多くなることが予想されました。人は、年を重ねるほど、筋力の低下やむくみなど、足に



古民家に工房を構える

問題が起きやすくなります。さまざま  
な症状に対応できるようにするため  
には、医学的な知識も必要だと考  
えました。

それで、起業前に義肢装具の会社  
に勤めて、整形靴の技術を学ぶこと  
にしたのです。整形靴とは、履く人  
の足の症状に寄り添いつくる靴のこ  
とです。例えば、左右で脚長差があ  
ると診断された人に対しては、加減  
を相談しながら片方の靴底を厚くし  
て、歩行のバランスを取りやすくし  
ます。整形靴をつくるのに資格は必  
要ありませんが、医師の診断のもと、  
国家資格をもつ義肢装具士が設計す  
る場合は、健康保険を適用できます。

——義肢装具士の資格を取ったので  
すか。

いいえ。それでも、足の病気や骨  
格、重心の取り方などを把握してい  
れば、足にかかる負担を減らして歩  
きやすくなるように、靴でサポート  
できます。今使っている足型の3D  
計測器も、この会社にいるときに知

りました。

1年間勤めながら、店を開く場所  
も探しました。実家と同じ周南市内  
の鹿野上という場所に空き家がある  
ことを知り、2015年に妻と移住しま  
した。鹿野上は、市の中心部から離  
れた山のなかです。バスは1時間に  
1本しかなく、車を持っていないと  
不便です。冬は雪が積もってさらに  
大変になります。それでも、わたしに  
とっては靴づくりに打ち込める最高  
の場所でした。古民家を住居兼店舗  
に改築して、翌年3月に開業しまし  
た。39歳のときです。

——お客さまが来店しにくい場所  
では売り上げのほう心配です。

たしかに、売り上げには波があり、  
十分ともいえません。そのため、ク  
リーニングの取次業と在宅警備の仕  
事を掛け持ちしています。

取次業は、移住を決めたときに地  
元の方が紹介してくれました。工房  
の隣を、預かった衣料品の保管場所  
にしています。冬物の洗濯が多くな  
る春先は少し忙しくなりますが、普  
段はそれほど時間をとられずにす  
みます。集配のためにご近所を回  
ることで顔見知りも増え、工房の  
宣伝にもつながります。在宅警備  
は、担当するお宅から呼ばれた  
ときに急行する仕事で、靴づくり  
と並行することができます。

妻も、移住後に生まれた子どもの  
面倒をみながらアルバイトをして、  
支えてくれています。二人に別途、  
定収入があるので、創作活動に自  
分のペースで打ち込むことができ  
るのです。

## 一足一足に心を込めて

——1足当たり、どのくらいの時間  
をかけているのですか。

靴の種類やオーダーの内容、お客  
さまの来店頻度などによって異な  
りますが、フルオーダーでは半年  
くらいです。

まず、ホームページから予約した  
うえで来店してもらい、採寸を行  
います。さらに、どのような形や色  
が好きか、普段履いている靴で気  
になるところはどこか、といった  
好みや歩行の癖などをヒアリング  
しながらデザインします。革や形  
の見本を見せて相手の反応を探  
ったり、足の状態を見てこちら  
から提案したりもします。1人  
当たり2時間くらいかけていま  
す。

ヒアリングをもとに靴を仕立て  
ます。自然と、履く人の顔や人柄  
が頭に浮かびます。試作の段階  
で、もう1度来店してもらい、仮  
合わせをします。このときも、  
最低30分はかけて話をし、履  
いた感じや見た目などに気にな  
るところはないかを聞き出しま  
す。時間をかけるのは、履いて  
すぐと、しばらく履き続けた  
ときでフィット感

や歩きやすさが変わるからです。

仮合わせはお互いに納得できるまで繰り返すので、5、6回来てもらってもあります。1回目で問題ないと言った方にも、1週間後に来てもらって再確認します。忙しくて何度も行けないと言われたら、こちらから試作品を持って出向きます。

ときには、会話のなかで感じたお客様の印象をもとに、試作段階でデザインを少し変えてみることもあります。「こっちのほうがいいね」と喜んでもらえたときは嬉しいですね。その人だけの一足なのですから、履く人はもちろん、わたしも100%満足できる靴をつくりたいのです。

——やはり、高齢のお客さまが多いのですか。

そうでもありません。当店の評判を聞いたと、幅広い年代の方が、遠方からも訪れるようになったのです。お客さまの多くは、足に悩みを抱えている方たちで、医師の診断による症状は、軽度の外反母趾<sup>ぼし</sup>から補助装具がないと歩けないケースまで、さまざまです。時間も人目も気にせずに落ち着いて話せることは、お客さまにとっても良い環境なのでしょう。

例えば、開店当初からお付き合いがある女性は、膝から足の甲までを覆う装具をつけていなければ歩くことができません。普段は義肢装具士

が設計した整形靴を履いていますが、医療用のためデザインには制約があります。たまには自由に靴を選びたいと、近所のオーダーメイドシューズ店に相談しましたが、既存の足型しか使っていないため対応できませんでした。そうしてたどり着いたのが、わたしの店だったのです。

思い描いていた靴に足を入れたときの彼女の笑顔は、今でも忘れられません。4足目になる今回は、「少しの距離でいいから装具をつけずに歩きたい」という願いを叶えようと、彼女と取り組んでいます。ギブスのように膝下から足首までを固定できるようにすれば、見た目は普通のブーツのように仕上がるはずです。

ほかにも計画していることがあります。当店独自の足型をつくって、コストダウンを図ることです。過去のお客さまのデータなどをもとに、症状とサイズ別に足の形を類型化して、



一足ずつ手作業で仕立てる

ベースとなる足型を設計します。それらをあらかじめプラスチック成形しておけば、調整して使い回せるので、足型を都度つくる必要がなくなります。既製の足型では対応できなかった方にも、より気軽におしゃれを楽しんでもらえるようになります。

オーダーメイドシューズに出会い、この場所に工房を構えて、ものづくりに好きなだけ打ち込める環境を整えることができました。たくさんのお客さまに喜んでいただけるようにもなりました。回り道をしましたが、今は、毎日がとても充実しています。

## 聞き手から

取材の途中、専門学校の卒業制作アルバムを見せていただいた。ローファーやブーツが並ぶなかで異彩を放つ作品が、福山さんのものだった。アーチ型に削った木製の靴底に、平紐状<sup>ひらひら</sup>のカラフルな樹脂が羽衣のように何重にも巻かれている。かろうじて履けそうだが、靴というよりは現代アートだ。創作全般が好きだという言葉が腑に落ちた。

アルバイトを掛け持ちするなど生活に余裕があるとはいいいにくい。しかし、やりたいことに没頭できるようになった福山さんの笑顔は、晴れやかだった。「いつかは卒業制作のような靴で作品展を開きたい」と語る福山さん。夢は尽きそうにない。

(桑本 香梨)